

## 平成 21 年度医療安全・質向上のための国立大学間相互チェックを受けました

国立大学病院間で年 1 回相互訪問して、医療の安全と質向上をチェックして評価しあいます。今年度の重点項目は、医療機器（病棟・外来） 処置（病棟・外来） 組織横断的ケア（病棟・外来） 手術部門、医療機器中央管理部門でした。今年は、岐阜大学が島根大学を訪問され、いくつかの意見をいただきました。

なお島根大学は高知大学を訪問しました。

日時：平成 21 年 10 月 8 日（木）～9 日（金）

今年度重点項目：医療機器、処置、組織横断的ケア、手術部門、医療機器管理部門

来学された大学：岐阜大学（岩間亨副病院長ほか 6 名）

（内容）

A. ヒアリング

B. 院内ラウンド（内科系病棟、ME センター、ICU、血液浄化治療部、救急部、手術部）

（主なコメント）

1. 全体的に医療安全への取り組みがしっかりしている印象を受けました。
2. 「医療安全」に力を入れておられる姿勢を示すためにも「病院の理念」に「安全」という言葉を入れてはどうでしょうか。
3. 病院医学研究補助金の制度をもうけて、質向上のための病院横断的な研究や、医師以外のスタッフの研修にも積極的にサポートしている体制は参考になりました。
4. インシデントレポートシステムが今年から更新され情報解析がきめ細くなり、また今進められている E-ラーニングシステムが参考になりました。



- 5 . 手術室内でスタッフが声をかけあい、あいさつもよくしてチームワークがよい印象を受けました。
- 6 . 定期的に更新されていると思われませんが、麻酔カート、麻酔器等の旧式のものが一部目に付きました
- 7 . ME センターでシリンジポンプ、輸液ポンプの管理体制がよく整備されている印象を受けました。



- 8 . 転倒転落のインシデントが減少傾向にあり、アセスメント、センター充実、身体拘束マニュアルなどの取り組みの効果がでてきているものと思われます。



## 平成 21 年度感染対策に関する国立大学間相互チェックを受けました

国立大学病院間で年 1 回相互訪問して、医療安全、感染対策をチェックして評価しあいます。今年度から、医療安全訪問と感染対策訪問は独立して行なわれることになりました。今年度は、岐阜大学と浜松医科大学の感染対策担当の方が、島根大学を訪問されました。島根大学病院の感染対策状況についていくつかの意見をいただきましたので紹介します。各部署の細かい指摘事項については、後日院内に周知します。

なお島根大学が訪問する大学は福井大学病院の予定です。

日時：平成 21 年 10 月 8 日（木）～9 日（金）

来学された大学：岐阜大学（村上生体支援センター長ほか 1 名）

浜松医科大学（橋本大 感染対策室副室長ほか 1 名）

（内容）

A. ヒアリング

B. 院内ラウンド（内科系病棟、内科系病棟、ICU、NICU、血液浄化部など）

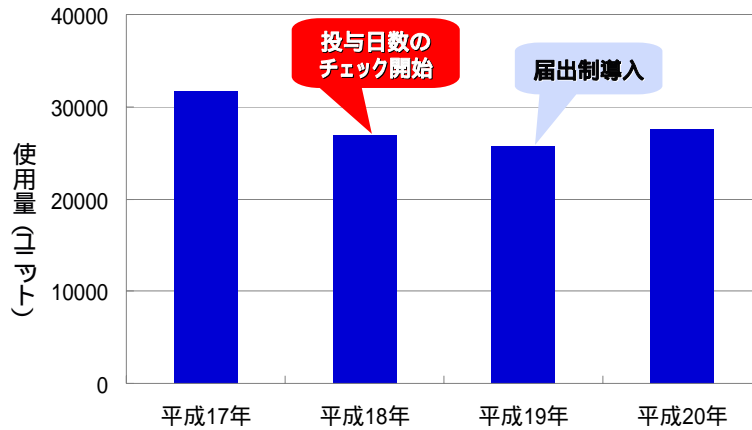
（主なコメント）

1. 病院全体をどこでも見てほしいという自信に満ちた姿勢が感じられました。感染対策組織が充実している印象を受けた。財政的サポートにも恵まれた環境にあると思われる。
2. 病棟、検査部、感染対策室の連携による感染サーベイランスシステムによる耐性菌モニタリングシステムも大変充実していると思われます。



3. 抗菌薬使用のモニタリング体制がしっかりしているのに感心しました。

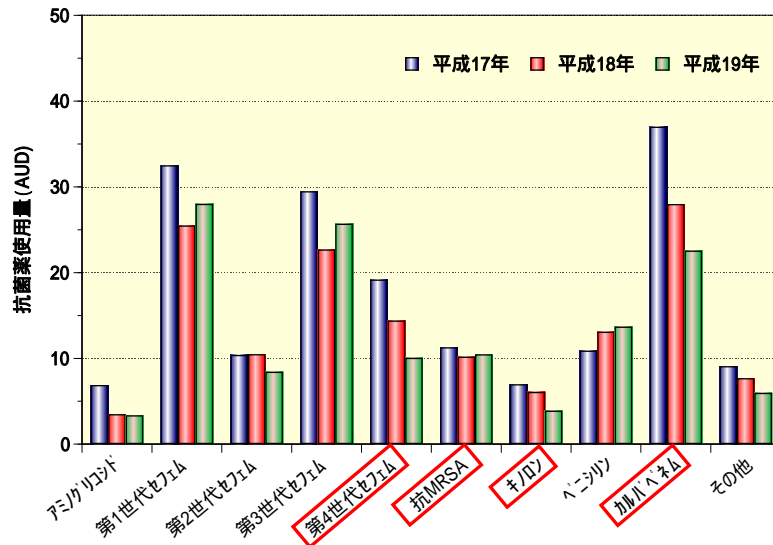
## 入院患者における注射用抗菌薬の使用量



(ユニット = 各抗菌薬の総使用量/各抗菌薬の常用量の最大値)

4. 特定抗菌薬届出体制が確立しているのは大変参考になりました。

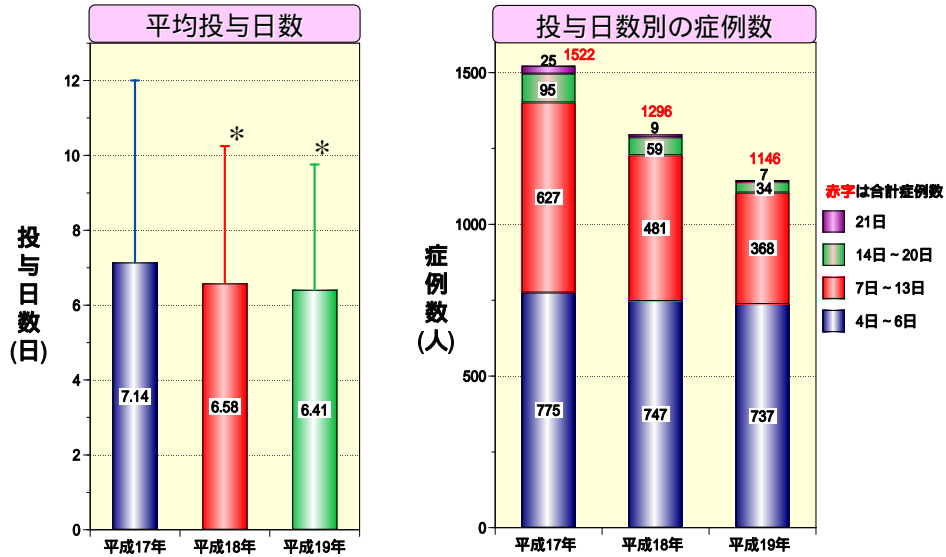
## 投与日数モニタリングおよび届出制導入効果 - 系統別注射用抗菌薬使用量 (4ヶ月間) の推移 -



調査期間:平成17年,平成18年,平成19年の9月~12月の使用量を集計.  
抗菌薬使用量: AUD(延べ入院患者 1000人当たりの抗菌薬使用ユニット数).

は指定抗菌薬

## 投与日数モニタリングおよび届出制導入効果 -4ヶ月(9~12月)の平均投与日数の変化-



\* p < 0.01, vs 平成17年 (Student's t-test).  
 調査期間: 平成17年, 平成18年, 平成19年の各年9月~12月.  
 対象症例: 注射用抗菌薬が連続して4日間以上投与された症例.

5. 医療廃棄物処理施設と感染対策室の連携がよく適切に機能していると思われました。

